

人権だより

(令和8年度7月号)

川之石高校人権委員会 担当 2年次1組

1学期もあと少しとなりました。夏休みを心待ちにしている人も多いのではないのでしょうか。学校生活では、授業や部活動、資格取得など様々な活動に取り組み、忙しい毎日を過ごしていると思います。夏休みは時間に余裕ができると思うので、家庭や地域で過ごす時間が有意義なものになるよう今から計画を立てるといいですね。

今回の人権だよりは、人権委員研修会で学習した内容を紹介します。テーマは、「同和問題の解決をめざして ～部落差別解消推進法から考えよう～」です。先月、第1回人権・同和教育ホームルーム活動がありましたが、皆さんはどのようなことを学び、感じたでしょうか。この人権だよりを読み、なぜ人権・同和教育の学習をするのかを改めて考えるきっかけにしてほしいと思います。

「知ること」が差別をなくす第一歩

1 同和問題を正しく理解していますか？



同和問題とは、被差別部落の出身という理由だけで、根拠のない言い伝えや偏見によって差別する人がいるという問題です。例えば、

- ・ 結婚を反対される
- ・ 就職で不利益を受ける
- ・ インターネットで差別的な書き込みがされる

など、人権を傷つける問題が今もなお存在しています。

「昔のことだから、もう終わった問題」と思われがちですが、現在も差別事案は起きており、決して過去の問題ではありません。近年、情報化が進んだことにより、インターネット上での部落差別が増加したことが新たな課題になっています。このまま放置すれば、部落差別が拡大するおそれがあります。

2 部落差別解消推進法とは

2016（平成28）年に施行され、正式な名称は「部落差別の解消の推進に関する法律」です。法律が作られた目的は、部落差別をあってはならないものとし、「部落差別をなくすこと」「一人ひとりの人権を尊重すること」「差別のない社会を実現すること」とされています。この法律の3つのポイントを知っておきましょう。

3つのポイント

- ・ 法律では、部落差別は今も存在し、解消していく必要があることを明確にしています。
- ・ 学校や地域で学習や啓発を進め、差別について正しく知ることが大切だとしています。
- ・ 差別で困った人が安心して相談できるよう、国や自治体が相談体制を整えることとしています。

3 差別は自然にはなくなる

研修では、次のようなインターネット上にある部落差別に関する書き込みの事例から考えました。

このような書き込みに対し、あなたはどのように思いますか？

人権委員からは次のような意見が出ました。

人権委員の感想

子どもが学校で同和問題を学習し、今も部落差別が残っていることを知ったと話してくれました。ただ、学校で同和問題学習の授業を受けなかったら、部落差別のことを全く知らずに生活していたかもしれません。もしかしたら、同和問題の学習をしなければ、自然と差別はなくなるんじゃないでしょうか。



- ・ 自分の何気ない言動が差別だと分からないまま、無意識のうちに差別をしてしまうかもしれない。だから、授業で正しく学ぶことが大切だと思う。
- ・ 部落差別を知らなかったら、どんな問題なのかが分からないから、差別が残されてしまうし、自然にはなくならないと思う。
- ・ 子どもは、親の考えを当たり前だと思ってしまう。それが正しい意見ではなかった場合、差別につながるおそれがあるため、学習をする必要があると思う。

「そっとしておけば、なくなる」という考え方をどう思いますか？

- ・ 知らないから偏見をもち、差別につながると思う。今までそっとしておいて、差別がなくならなかったのだから、差別をなくすために学ぶ必要がある。
- ・ はじめはこの考えに少し納得していたけど、差別について正しく知っておかないと間違いや問題に気付くことができないと思う。
- ・ 差別があることを他人事のようにとらえている感じがして良くないと思う。

差別は「今」（現在）、「ここ」（身近なところ）にあります。今なお、部落差別が存在しているにもかかわらず、「自分の身近に差別はないから関係ない」、「そのうちなくなるまで何もしない方がよい」などと考えることは「寝た子を起こすな」と言われます。このような考え方は、差別の解消につながらないばかりか、かえって差別を残し拡大する結果を招くことにもなります。

今日では、多くの人がSNSやインターネットを利用しています。膨大な情報には誤った内容が含まれていたり、根拠のないうわさや差別的な情報が拡散されたりすることもあります。見たたり聞いたりしたことをそのまま信じたり、拡散したりすることは、新たな差別につながる可能性もあります。

大切なのは

正しい知識を身に付けること
一人ひとりの人権を尊重すること
差別を見聞きしたときに、「おかしい」と考えられること